現高2生へ

2014年に向けての【学習アドバイス】倫理、政治・経済

I. 「倫理」分野は教科書を中心とした思想家の説・主張の整理

センター試験の「倫理」は例年、思想家が主張している説に関わる具体的な知識が問われており、これに関しては最低限、教科書の太字部分を完全に理解して臨みたい。加えて、資料集や用語集を使用して重要人物に関する思想内容を理解し、主張する説に含まれるキーワードを整理することが重要である。

各大問は、それぞれが分野ごとの出題になっている。配点も高く、これまで繰り返し出題されている思想家が多く登場する「源流思想」「日本の思想」「西洋の思想」を中心に、「青年期」「現代社会の課題」の知識を加えるようにして学習を進めていくとよいだろう。

II. 読解力や表現力を養成すること

センター試験の「倫理」では例年、「本文の趣旨に合致する記述」の正誤を判定する問題が出題され、正確で論理的な理解力が求められている。思想家の主張には難解なものも含まれていたりもするが、その主張内容を教科書や資料集の一字一句を「記憶」するのではなく、自分の言葉でも説明できるような「理解」に心がけることが大切である。そのためには読解力と表現力などの国語力の養成が必要である。

III. 初見のグラフの読解問題が必ず出題

センター試験の「倫理」で例年出題される問題形式の一つが、グラフの読解である。出題される分野は、「青年期」と「現代社会の課題」に限られ、「青年期」の場合には青少年の意識調査の結果をまとめたものが大半である。丁寧にグラフと選択肢を比較すれば正解は得られる。

IV. 「政治・経済」分野も教科書による基礎知識の習得が基本

センター試験の問題は、学習指導要領に則り、教科書に掲載してある部分から出題されるのが原則であるため、基本的な知識は教科書を精読することで蓄積したい。教科書の中で意味が分からない用語が出てきたら、用語集などで調べる習慣をつけておくこと。

V. 「政治・経済」では資料集が必携

教科書に掲載されていない情報は資料集などから補うことができる。センター試験では時事問題も出題されるため、最新の資料集で知識の集約を図りたい。また、例年出題されるグラフや統計に関する読解力も資料集に掲載されているものを中心に必ず目を通しておきたい。

VI. 過去問を解く

大学入試センター試験は、過去に出題された問題の内容を再び出題することが多くなっていくことが予想される。今後、過去問の検討は受験生にとっては必須であろう。教科書での学習がある程度進んだ場合、「倫理、政治・経済」は、「倫理」と「政治・経済」の2科目の過去問を解いてみよう。上記のI～VIで指摘した傾向に気付くはずである。傾向が分かれば、対策を立てるのも容易であろう。